東京インターナショナルセンター概要

—20年のあゆみ—

昭和60年7月

国　際　協　力　事　業　団
東京インターナショナルセンター

000
36
TIC
LIBRARY

東京インターナショナルセンター概要
—20年のあゆみ—

JICA LIBRARY
1012607[6]

国　際　協　力　事　業　団
東京インターナショナルセンター

国際協力事業団	
受入月日 '85. 8. 31	000
	36
登録No. 11902	TIC

はしがき

東京インターナショナルセンター(ＴＩＣ)は東京オリンピックの年、昭和39年の９月、開発途上諸国からの研修員受入れ事業の拠点として、海外技術協力事業団(ＯＴＣＡ)の中央研修センターの名称で開所されて以来、20年余の歴史を経てきました。

この間、アジア、アフリカ、中近東、中南米及び大洋州などの約100か国からの民族、言語、宗教、風俗習慣などの異なる研修員が本センターを Home away from home として互いに協力し合って極めて平和裡に過し、名実ともにＴＩＣは国際交流の殿堂にふさわしいセンターに発展してきました。

ちなみに、この20年間にＴＩＣに宿泊した研修員の延人日数は162万人日を超える膨大な数になります。

このような歴史を持つＴＩＣも施設の著しい老朽化、設備の古さ、居室の居住性の悪さなどのため、研修員を受け入れるにふさわしくないものとなり、昭和60年度をもって、解体、改築されることになりました。

この小冊子は、東京インターナショナルセンターの20年のあゆみをとりまとめたものですが、何分にも多忙の間にとりまとめたこともあって不備、杜撰な点もあろうことかと思います。

ここに、長年にわたって、本センターの事業や運営にご支援ご鞭撻いただいた各位に謝意を表するとともに少しでも参考になればと作成した次第であります。

昭和60年７月

東京インターナショナルセンター
所長　北　野　康　夫

目　次

はじめに
1．東京インターナショナルセンター(ＴＩＣ)の設立と任務……5
2．施設概要……6
　所　在　地……6
　建物規模……6
　主要施設……6
　見　取　図……7
　ＴＩＣ配置図……10
　ＴＩＣ付近地図……10
3．組織及び事務分掌……11
　組　織　図……11
　総　務　課……11
　業　務　課……11
　会　計　課……11
4．予算の推移……12
5．ＴＩＣのあゆみ……13
6．実績資料……15
　(1)　ＴＩＣ宿泊数の動き……15
　(2)　ゼネラル・オリエンティション……17
　(3)　ブリーフィング……17
　(4)　日本語講習……18
　(5)　昭和59年度地域別・国別宿泊延人数表……19
7．写真で見るＴＩＣのうごき……22
8．国際協力事業団国際研修センター一覧……31

1．東京インターナショナルセンター(ＴＩＣ)の設立と任務

東京インターナショナルセンター（Tokyo International Centre：略称ＴＩＣ）は、国際協力事業団の前身のひとつである海外技術協力事業団の付属機関として昭和39年９月に設立されました。

本センターは、開発途上国に対する政府の技術協力事業の一環として、アジア、アフリカ、中近東、中南米及び大洋州等の国々から受入れる研修員の宿泊、研修用教室等の提供、日本語講習、日本事情のオリエンティションの実施などの任務を担ってきました。

毎年3,000人ちかい研修員が本センターに宿泊し、ここを本拠にして都内や近郊にある国、政府関係機関、地方公共団体、民間団体などの研究機関や大学などで研修に励んできております。海外技術協力事業団時代の入館延人数は不明ですが、国際協力事業団設立の昭和49年度以降の入館延人数だけでも32,000人を超えています。

これらの研修員は帰国後、各国の夫々の分野において指導的立場で活躍していますが、その活躍ぶりは各国の経済的、技術的、社会的発展に大きな貢献をしてきております。

また、研修員を通じての彼我の交流は、研修員のための日本理解や世界各国の相互理解にとって、貴重な財産となることが期待されています。

ちなみに、本センターに宿泊し都内や近郊にある研修機関で研修した集団研修コースには、地方行政、国際電信電話業務、衛星通信技術、通信線路技術、ディジタル交換技術、農業普及、港湾工学、水力発電、火力発電、水路測量、建設機械、廃棄物処理、工業標準化、消防行政、上水道施設、一般統計、気象学、鉄道信号などおよそ50コースあり、また、大阪、名古屋、兵庫、筑波、神奈川、沖縄にある本事業団のセンター、中国、九州、東北の各支部や国、地方公共団体、その他の研修機関へ移動する集団研修コースも工業開発計画実務、窯業、溶接、養鶏、貨幣及び勲章製造、微生物研究、測量技術、沿海鉱物資源探査、計量標準、漁業協同組合、航海技術、エビ養殖技術、水産食品加工、稲作機械化、農業機械整備、プラント・メインテナンスなどおよそ50コースがあります。

このほか、ＴＩＣに宿泊し、集団研修コースと同じように、都内や近郊の研修機関で研修している個別研修コースの研修員やＴＩＣでオリエンテイションや日本語講習を受けた後、上記センター、支部のほか、北海道、四国支部などへ移動し、国、地方公共団体などで研修する個別研修員もかなりの数にのぼります。

2. 施設概要

東京インターナショナルセンターの所在地、建物規模、主要施設及び見取り図は次のとうりです。ＴＩＣは前述のように、東京オリンピックの年、昭和39年９月に開所されましたが、その後２回の増築工事が行われ、昭和44年３月には南棟が完成、これにより、１人室115室、洗濯室、アイロン室、スポーツ室などが出来ました。

さらに、昭和46年12月の第２期増築工事により、ラウンジ、事務室が完成、現形に至っております。

◇所　在　地

住　　所 ： 東京都新宿区市谷本村町10―５

郵便番号 ： 162

電　　略 ： JICATIC

電　　話 ： 03―267―2311

◇建 物 規 模

構　　造 ： 鉄筋コンクリート６階

敷地面積 ： 3,897㎡

建築面積 ： 1,848㎡

延床面積 ： 7,818㎡

◇主 要 施 設

地　　階 ： フロント・デスク、ロビー、スポーツ室、洗濯室、アイロン室、機械室、守衛室

1　　階 ： 事務室、ラウンジ、食堂、売店、居室

2　　階 ： 所長室、日本語講師控室、日本語教材開発室、講師控室、研修監理員控室、ブリーフィング担当者控室、会議室、図書室、ＴＶ室、ステレオ室、教室(1)～(2)、居室

3　　階 ： 教室(3)～(13)、タイプ室、居室

4　　階 ： 講堂、教室(14)、居室

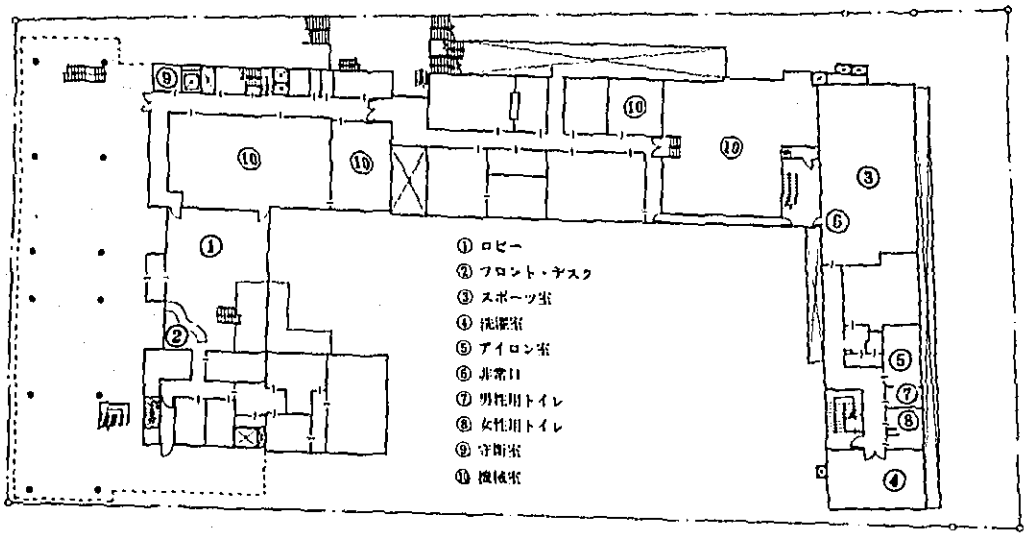
5　　階 ： 医務室

1階～5階 ： 研修員居室　270室（宿泊可能人員　275人）

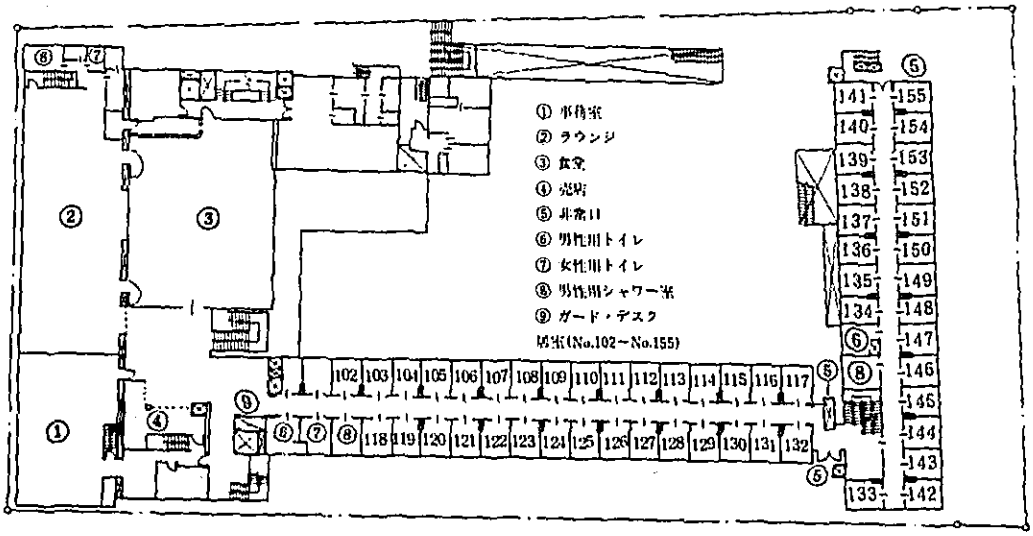
１人室　265室、２人室　5室

◇見　取　図(地下・1階)

地階

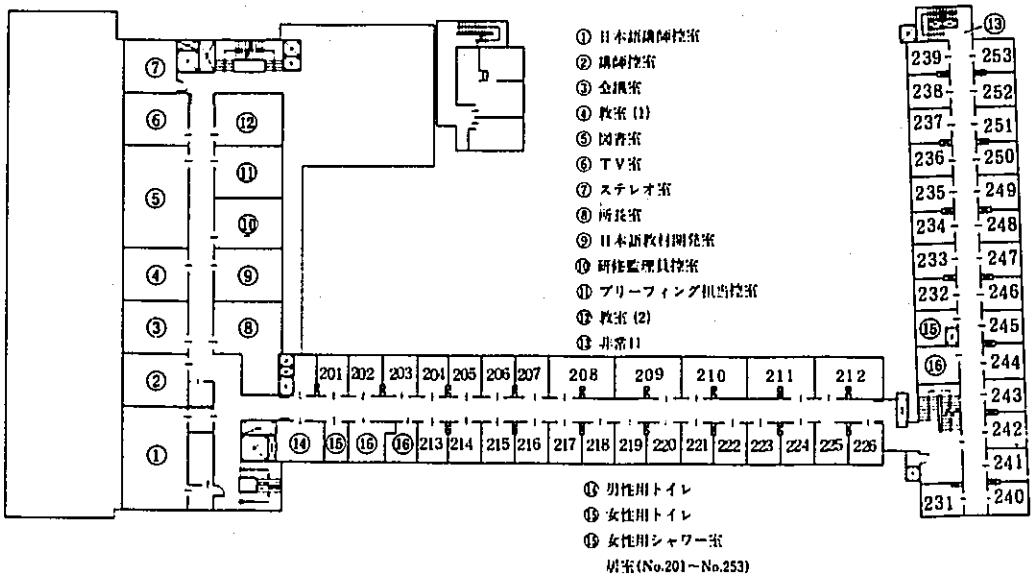


1階

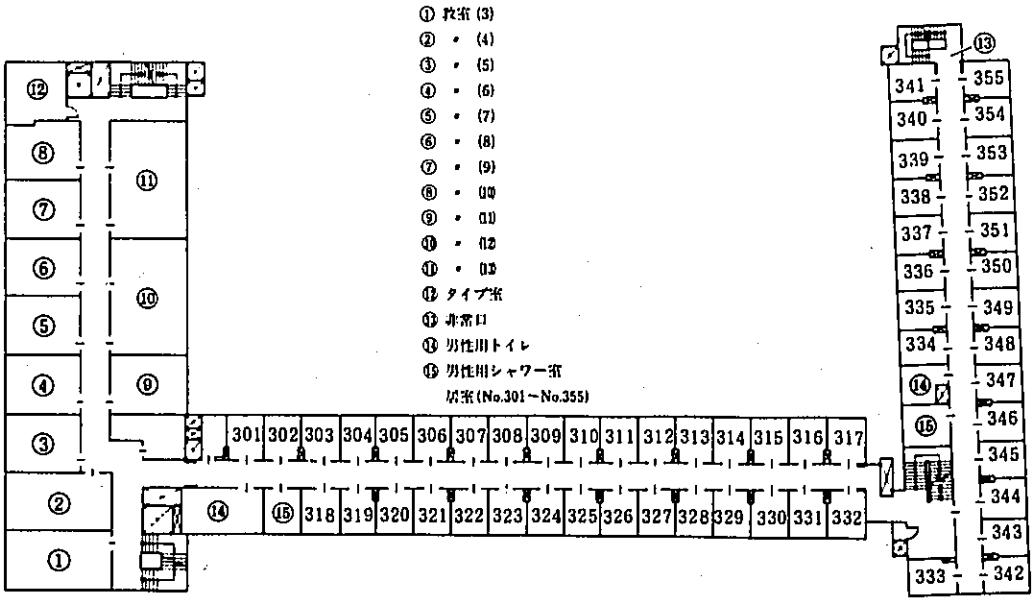


◇見　取　図(2階・3階)

2階

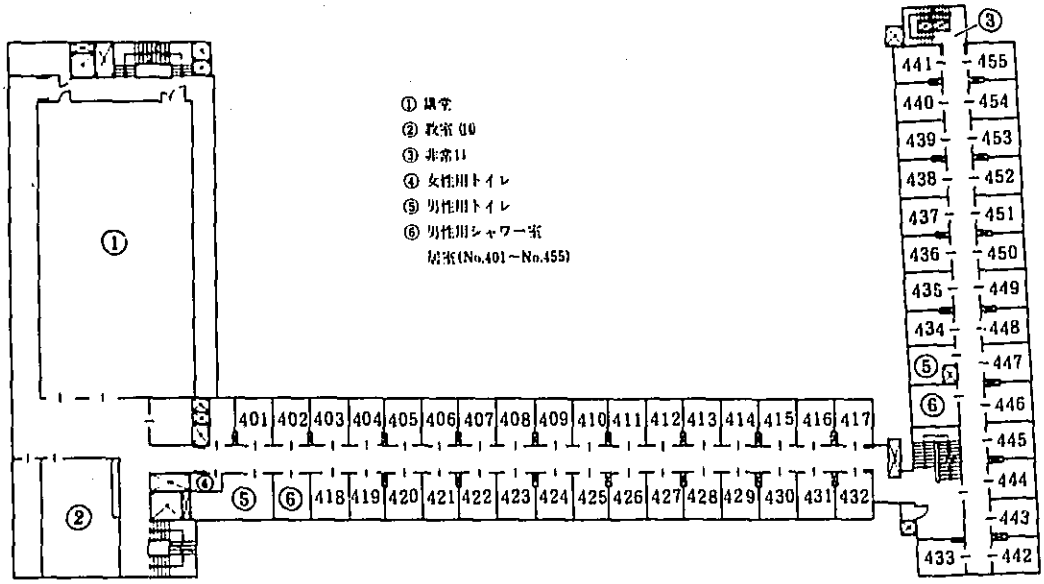


3階

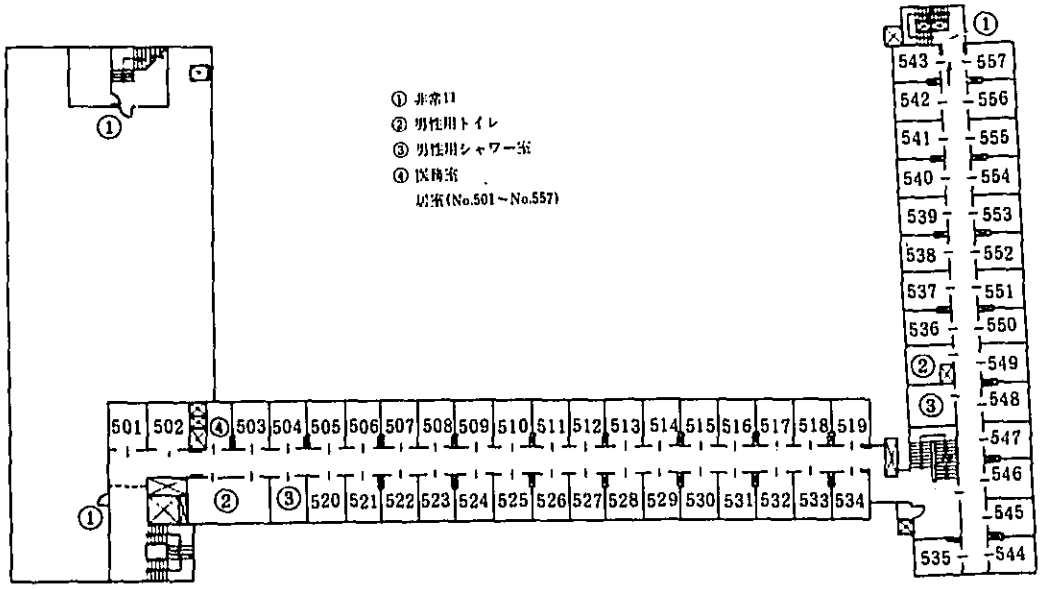


◇見　取　図(4階・5階)

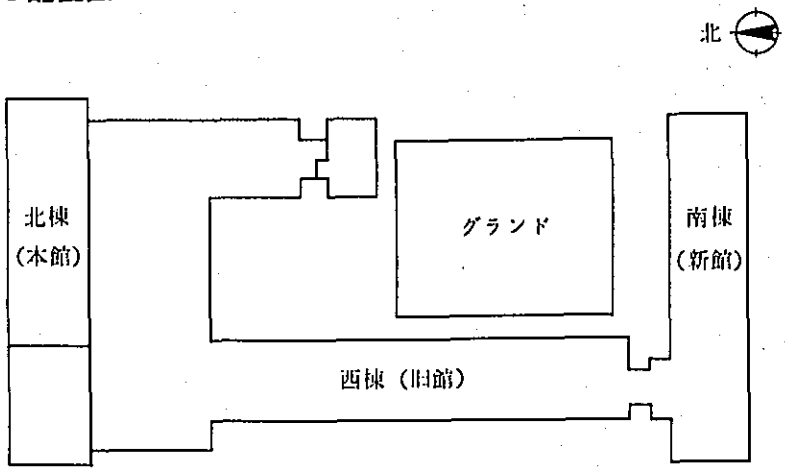
4階



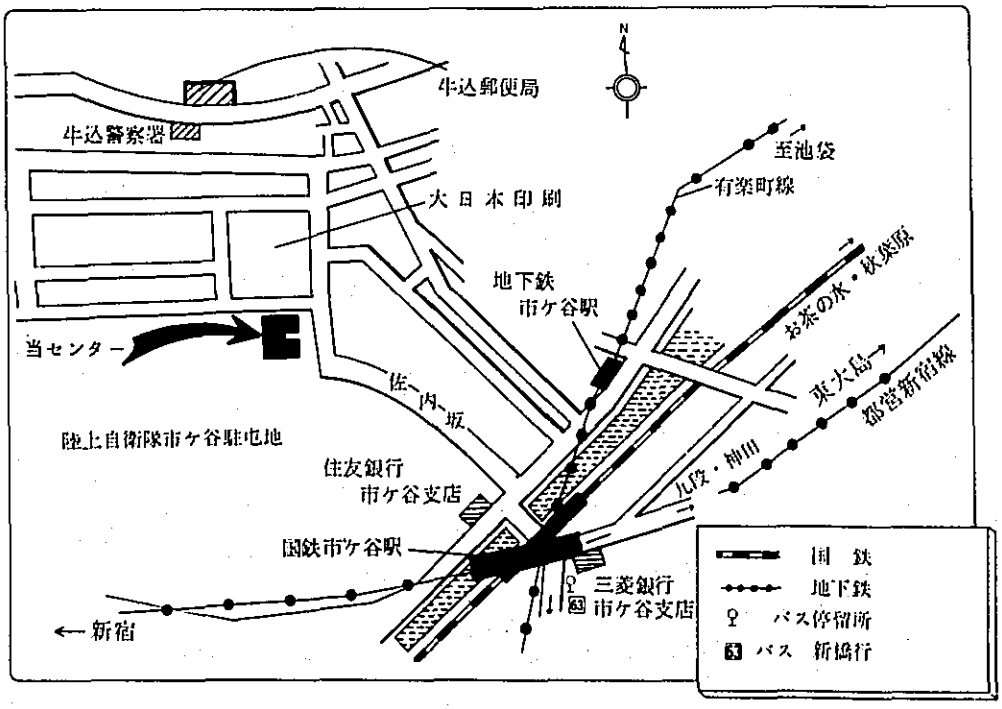
5階



◇ＴＩＣ配置図



◇ＴＩＣ付近地図



3．組織及び事務分掌

東京インターナショナルセンターの組織及び事務分掌は次のとうりです。昭和39年9月の開所当時から昭和44年4月までの間、館長のもとに課室制度はなかったが、昭和44年5月に室制度を導入、総務室、業務室及び会計室が誕生、さらに、昭和50年8月から館長の呼称を所長とし、さらに課制度が導入され現在の総務課、業務課及び会計課が発足しました。

◇組　　織

所　長
- 総務課
- 業務課
- 会計課
- 調査役

◇事務分掌

総務課
(1)技術研修員の宿泊に関すること。
(2)公印の管守に関すること。
(3)文書の取扱いに関すること。
(4)センター規則の制定及び改廃に関すること。
(5)物品の売買，賃借及び輸送並びに業務委託等の契約に関すること。
(6)センターの不動産及び物品の管理に関すること。
(7)センター内の取締りに関すること。
(8)職員の研修に関すること。
(9)職員等の福利厚生に関すること。

業務課
(1)技術研修員の生活上の指導及び相談に関すること。
(2)技術研修員の福利厚生に関すること。
(3)技術研修員に対するオリエンテーション、日本語研修に関すること。

会計課
(1)センターの収支予算及び決算に関すること。
(2)現金等の出納及び管理に関すること。
(3)物品の出納に関すること。
(4)給与等の支払に関すること。
(5)会計報告に関すること。

4．予算の推移

ＴＩＣの予算は設立年度（昭和39年度）において施設運営費のみの19,345千円であったが、昭和45年度から新たに管理費が7,084千円、海外技術協力事業費が11,517千円示達されました。これより、研修員に対する福利厚生活動などが活発化し、バレーボール大会、卓球大会なども行われるようになり、また、日本語講習が昭和47年度から、ゼネラル・オリエンティションも昭和51年度からＴＩＣの業務となりました。管理費の推移は施設の補修などの経費が建築後10年目頃から20年目にかけて増え続けていたことを物語っています。

（単位：千円）

年度＼費目	管　理　費	海外技術協力事業費	施設運営費	合　　計
39	——	——	19,345	19,345
40	——	——	40,381	40,381
41	——	——	45,334	45,334
42	——	——	45,530	45,530
43	——	——	49,170	49,170
44	——	——	81,633	81,633
45	7,084	11,517	92,551	111,152
46	8,305	14,235	99,275	121,815
47	7,619	26,496	101,803	135,918
48	11,829	16,868	120,583	149,280
49	15,141	13,281	150,921	179,343
50	28,459	16,665	183,429	228,553
51	22,026	19,121	200,838	241,985
52	21,057	64,745	226,890	312,692
53	60,039	96,409	201,954	358,402
54	65,781	109,782	245,584	421,147
55	45,458	137,548	233,480	416,486
56	84,841	126,611	278,405	489,857
57	49,384	112,251	264,375	426,010
58	49,849	113,610	232,861	396,320
59	17,038	128,019	229,025	374,082
60	4,262	156,670	111,624	272,556※

※管理費、施設運営費は６か月、海外技術協力事業費は４か月予算

5. ＴＩＣのあゆみ

東京インターナショナルセンター開館以来、20年余、およそ7,500日の歳月が過ぎてきていますが、開館当初の皇太子殿下ご夫妻のご来訪やビレンドラ・ネパール国皇太子殿下のご滞在など輝かしい思い出もあります。歴代の所長（館長）は、ＴＩＣが世界100か国からの研修員のHome away from homeであるべく絶ゆまぬ努力を続けてきました。以下は20年間の主要なできごとをまとめたものです。

年月＼事項	で　き　ご　と	他のセンター
昭和39年９月	海外技術協力事業団中央研修センターとして開館	
	館長就任（渡辺文平）	
	皇太子殿下ご夫妻のご来訪	
40年３月	39年度入館延人日数24,769	
41年３月	40年度入館延人日数49,716	
42年３月	41年度入館延人日数53,590	写大阪国際研修センター開設
42年５月	ネパール国ビレンドラ皇太子殿下のご滞在	
43年３月	42年度入館延人日数49,806	
44年３月	第１期増築竣工（南棟115室，スポーツ室）	
44年３月	43年度入館延人日数50,756	
44年４月	館長交替（八坂傳郎）	
44年５月	総務室，業務室，会計室の設置	
44年12月	館長交替（大野隆次代行）	
45年１月	〃　（武田道夫）	
45年３月	44年度入館延人日数73,759	
45年４月	管理費，海外技術協力事業費の示達	
45年６月	東京インターナショナルセンターに名称変更	
46年３月	45年度入館延人日数83,197	写名古屋国際研修センター拡張
46年４月	館長交替（保里久保兼務）	
46年６月	〃　（国又　和）	
46年12月	第２期増築竣工（ラウンジ，事務室）	
47年３月	館長交替（阿部千寿生）	
47年３月	46年度入館延人日数83,696	
47年４月	日本語関係予算の示達	
47年５月	研修員の第１回大相撲観戦（日本相撲協会招待）	
47年６月	海外技術協力事業団設立10周年	
47年８月	ＴＩＣ宿泊延人日数50万を超える	
48年３月	47年度入館延人日数80,883	写兵庫インターナショナルセンター開設
49年３月	48年度入館延人日数89,023	写神奈川国際水産研修センター拡張
49年８月	国際協力事業団設立	
49年８月	館長交替（植原保一）	
49年９月	東京インターナショナルセンター10周年	

年月＼事項	で　き　ご　と	他のセンター
昭和50年３月	49年度入館延人日数89,442	
50年６月	館長交替（宮本守也）	
50年８月	所長，総務課，業務課，会計課に名称変更	
50年11月	第１回牛込警察署有段者による武道エキシビジョン	
51年３月	50年度入館延人日数86,849	
51年４月	所長交替（奥野有志麿）	
51年４月	ゼネラル・オリエンテイション開始	※八王子国際研修センター開設
52年３月	51年度入館延人日数82,604	
52年４月	日本語（集中，一般）講習開始	
53年３月	52年度入館延人日数88,054	
53年６月	ＴＩＣ宿泊延人日数100万を超える	
54年３月	53年度入館延人日数89,649	
54年７月	所長交替（国又　和）	
54年８月	第１回群馬県小中学生との交流	
55年３月	54年度入館延人日数91,346	※筑波インターナショナルセンター開設
56年３月	55年度入館延人日数91,406	
56年４月	来日研修員に対するブリーフィングの開始	※筑波国際農業研修センター移改築
57年３月	56年度入館延人日数91,409	
58年３月	57年度入館延人日数90,652	
58年12月	ＴＩＣ宿泊延人日数150万を超える	
59年２月	所長交替（北野康夫）	
59年３月	58年度入館延人日数91,353	
59年４月	50,000人目の研修員宿泊(ビルマのミヤ・キヨウさん)	
59年８月	国際協力事業団設立10周年	
59年９月	東京インターナショナルセンター設立20周年	
59年11月	住居表示の変更 （市谷本村町42―11から市谷本村町10―５へ）	
60年３月	59年度入館延人日数90,759	※沖縄国際センター竣工
60年７月	ＴＩＣ宿泊研修員，東京国際研修センターへ移動	※東京国際研修センター竣工
60年７月	ＴＩＣ閉館（予定）	

6. 実績資料

(1) ＴＩＣ宿泊者数の動き

昭和39年９月以降の宿泊者数は次のとうりですが，残念ながら，昭和39年度から昭和48年度（ＯＴＣＡ分）までの入館延人数は不明です。

この20年余の間に、ＴＩＣに宿泊した研修員の延人日数は、162万人日を超える膨大な数になり、国際協力事業団設立以来の平均入館率も受入研修員の数の増加などにより、90％を上回っております。

年度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	入館延人数	入館率(%)	備　　考
39	—	—	—	—	—	2,908	4,422	4,071	3,438	2,880	3,421	3,629	24,769	—	61.3%	
40	3,457	3,457	4,193	4,907	4,950	4,648	4,781	4,147	2,865	3,705	4,197	4,409	49,716	—	71.3%	
41	3,886	4,603	4,750	4,748	5,170	4,895	5,210	4,029	3,384	4,515	4,630	3,770	53,590	—	76.9%	
42	2,564	5,140	5,005	4,951	4,894	4,788	4,561	4,676	3,296	2,892	3,391	2,648	49,806	—	71.2%	
43	3,578	4,817	4,661	4,486	4,681	4,372	4,658	4,305	3,203	3,885	4,309	3,801	50,756	—	72.6%	44/3　宿泊棟増築
44	3,151	4,084	6,141	6,295	6,626	7,417	7,333	6,713	6,134	5,781	7,145	6,939	73,759	—	74.8%	44/6　研修員入館開始
45	6,281	7,419	7,065	7,166	7,106	7,422	7,301	7,528	5,731	5,868	7,288	7,022	83,197	—	84.4%	
46	6,462	7,902	7,737	7,597	7,421	7,405	7,251	7,120	5,726	5,791	6,879	6,405	83,696	—	84.7%	46/12 ラウンジ等増築
47	4,878	7,081	7,189	7,329	6,969	7,004	7,376	7,174	6,548	6,406	6,085	6,844	80,883	—	82.1%	
48	6,768	6,573	7,587	7,826	8,101	7,751	8,320	7,865	6,110	6,638	7,484	8,000	89,023	—	90.3%	
49	7,043	7,791	7,193	7,866	7,190	7,612	8,055	8,072	5,583	7,231	7,465	8,341	89,442	3,587	90.8%	49/8　ＪＩＣＡ設立
50	6,297	7,445	7,683	7,977	7,709	7,196	7,320	7,725	6,325	6,236	7,226	7,710	86,849	3,505	87.9%	
51	7,177	7,427	7,714	6,889	7,324	7,555	8,160	7,425	5,313	4,936	5,983	6,701	82,604	2,908	83.8%	
52	5,387	7,924	7,932	8,014	7,714	7,657	8,401	8,229	6,914	6,285	7,037	6,560	88,054	3,088	89.3%	
53	6,388	8,022	7,902	7,362	7,730	8,114	8,350	8,186	6,279	6,619	7,140	7,557	89,649	3,145	91.0%	
54	6,847	8,072	8,016	8,248	8,172	8,115	8,339	7,696	6,595	6,777	7,280	7,189	91,346	2,812	92.4%	
55	6,222	7,722	7,756	8,001	7,906	7,813	8,528	8,153	6,994	7,468	7,296	7,547	91,406	2,785	92.8%	
56	6,020	7,815	7,768	8,193	8,082	7,913	8,377	7,785	7,141	7,638	7,280	7,397	91,409	2,956	92.8%	
57	6,473	7,988	7,904	8,050	7,670	7,650	8,430	7,574	6,531	7,332	7,138	7,912	90,652	2,530	92.0%	
58	7,258	7,700	7,711	8,065	8,142	7,828	8,174	7,902	6,438	7,282	7,505	7,348	91,353	2,540	92.4%	
59	7,100	7,995	7,840	8,075	7,537	7,675	8,304	7,804	7,304	7,114	6,982	7,029	90,759	2,387	92.1%	
60	(6,000)	(7,800)	(7,800)	(4,500)	—	—	—	—	—	—	—	—	(26,100)	—	—	60年度は予定人日数
計	人日 114,237	人日 136,977	人日 139,747	人日 142,045	人日 141,094	人日 143,738	人日 151,651	人日 144,179	人日 117,852	人日 123,279	人日 133,161	人日 134,758	人日 1,622,718	人数 32,243	—	60年度は計に含まれず

(2)ゼネラル・オリエンティション

日本の政治、経済、社会、教育、その他日本の経済協力、日本人の行動様式など日本及び日本人紹介のためのゼネラル・オリエンティションは、昭和51年度から始まりました。受入研修員数の増加に伴って、ゼネラル・オリエンティションへの参加者数も毎年度増加しております。

人数 / 年度	参加人数	備　考
昭和51年度	1,405	
52年度	1,423	
53年度	1,456	
54年度	1,564	
55年度	1,705	
56年度	1,853	
57年度	1,979	
58年度	2,225	
59年度	2,200	
60年度	(700)	7月までの予定人数

(3)ブリーフィング

ブリーフィングは、制度的に昭和56年度から始まりました。ブリーフィングでは、研修に関する必要事項、研修員心得の説明、パスポート、ビザ、人物の確認及びクィック・カードの交付、使い方、航空券預り、その他日常生活に必要な事項の説明を行っております。

人数 / 年度	参加人数	備　考
昭和56年度	1,142	
57年度	2,965	
58年度	3,004	
59年度	3,028	
60年度	(1,000)	7月までの予定人数

(4)日本語講習

日本語講習は、昭和47年度に始まりましたが、集中講習と一般講習が制度的にＴＩＣで実施されるようになったのは、昭和52年度からです。集中講習コースは、研修プログラムの一環として、昼間に集中的に実施しているもので、また、一般講習コースは希望者に対して、技術研修が終了した夜間を利用して行っているものです。とくに、一般講習コースへの参加者数は、最近増加の傾向にあります。

人数 / 年度	集中講習人数	一般講習人数	合　　計
昭和 52 年度	158	321	479
53 年度	183	462	645
54 年度	192	428	620
55 年度	247	640	887
56 年度	241	615	856
57 年度	320	558	878
58 年度	232	866	1,098
59 年度	343	977	1,320
60 年度※	(110)	(300)	(410)

※60年度は７月までの予定人数

(5) 昭和59年度地域別・国別宿泊延人数表

昭和60年3月31日現在

国名	人数	国名	人数	国名	人数	国名	人数
(アジア)		ジョルダン	5	セネガル	4	ヴェネズエラ	12
バングラデシュ	32	クウェイト	3	シエラ・レオーネ	4	コロンビア	17
ブータン	4	リビア	1	タンザニア	27		
ビルマ	98	オマーン	1	ウガンダ	3	計　21か国	361
ブルネイ	3	サウディ・アラビア	11	ザイール	2		
中国	170	ソマリア	3	ザンビア	6	(大洋州)	
ホンコン	29	スーダン	19	ジンバブエ	1	フィジー	24
インド	35	シリア	4	カメルーン	1	キリバス	7
インドネシア	240	テュニジア	3			パプア・ニューギニア	8
韓国	57	トルコ	21	計　23か国	162	ソロモン諸島	6
マレイシア	268	アラブ首長国連邦	1			トンガ	1
モルディヴ	5	イエメン	2	(中南米)		西サモア	1
モンゴル	12			アルゼンティン	24	ミクロネシア	1
ネパール	28	計　17か国	184	ボリヴィア	15		
パキスタン	40			ブラジル	77	計　7か国	48
フィリピン	161	(アフリカ)		チリ	15		
シンガポール	72	ボツワナ	1	コスタ・リカ	9		
スリ・ランカ	59	中央アフリカ	8	ドミニカ共和国	9	(欧州)	
タイ	205	コモロ	4	エクアドル	7	ギリシャ	3
ヴィエトナム	6	エティオピア	15	エル・サルヴァドル	2	ポルトガル	1
日本	94	ガボン	1	グァテマラ	5	アメリカ合衆国	1
		ガンビア	1	ハイティ	2	セントビンセント	1
計　20か国	1618	ガーナ	17	ホンデュラス	8	ユーゴスラヴィア	8
		象牙海岸	1	ジャマイカ	1		
		ケニア	39	メキシコ	46	計　5か国	14
(中近東)		リベリア	4	ニカラグァ	3		
アルジェリア	4	マダガスカル	2	パナマ	17		
バハレーン	1	マラウイ	2	パラグァイ	44	合計　93か国	2387
エジプト	53	モーリタニア	1	ペルー	46		
イラン	26	ナイジェリア	17	ウルグァイ	1		
イラク	26	ルワンダ	2	ガイアナ	1		

写真で見る
東京インターナショナルセンター
のうごき

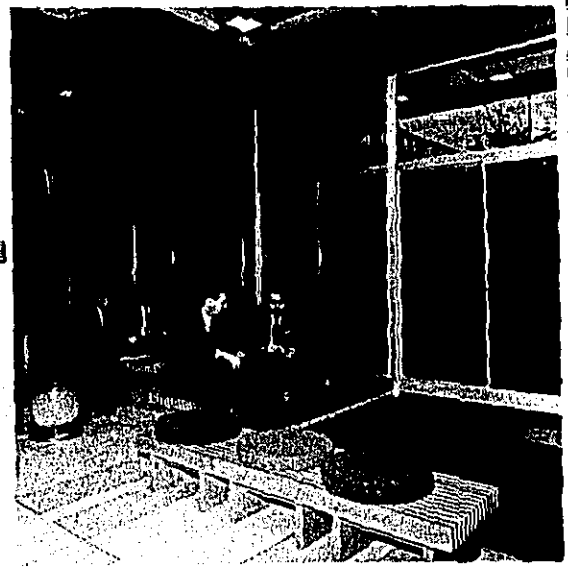
7. 写真で見る
東京インターナショナルセンター
のうごき

1. 皇太子殿下ご夫妻のご来訪(昭和39年)
2. フロント・ロビー前の研修員達(昭和42年)
3. ネパール・ビレンドラ皇太子殿下のご滞在(昭和42年)
4. 自習中の研修員(昭和43年)
5. 卓球大会(昭和48年)
6. ダンス・パーティ(昭和49年)
7. 日本語講習閉講式(昭和51年)
8. 集団研修コース閉講式(昭和53年)
9. 生花教室(昭和55年)
10. アート・スクール(昭和58年)
11. 防災訓練(昭和58年)
12. 群馬ユネスコ少年団の来訪(昭和58年)
13. 高級研修員の視察(昭和59年)
14. ゼネラル・オリエンテイション(昭和59年)
15. 日本武道鑑賞会(昭和59年)
16. サマー・パーティ(昭和59年)

写真で見るTICのうごき（1）

❶ 皇太子殿下ご夫妻のご来訪

ＴＩＣ（当時は中央研修センターの名称で呼ばれていた）をご視察され、研修員とご歓談中の皇太子殿下ご夫妻（昭和39年）。



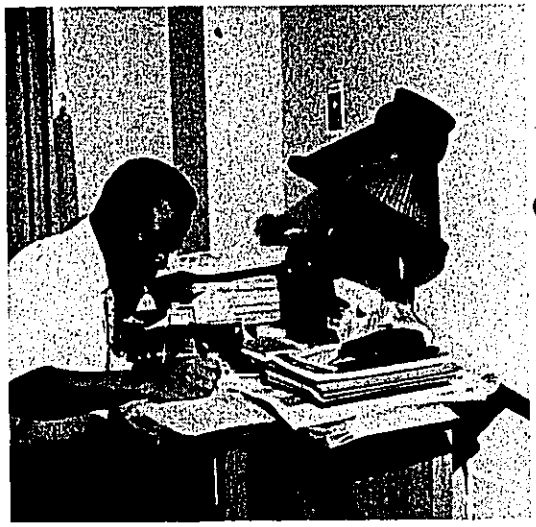
❷ フロント・ロビー前の研修員達

ＴＩＣにおいて、この20年余の間、アジア、アフリカ、中近東、ラテン・アメリカ、そして大洋州からの研修員が互いに交流し、相互理解を深めてきた。来館直後、フロントデスク前のロビーでくつろぐ研修員達（昭和42年）。

写真で見るTICのうごき (2)

❸ ネパール・ビレンドラ皇太子殿下のご滞在

東京大学での学究のため来日され、数日間、ＴＩＣにもご滞在された若き日のネパール・ビレンドラ皇太子殿下（前列左から４人目)。ＴＩＣにおいても、諸外国からの研修員やＴＩＣの職員とも親しく交流された。ＴＩＣの中庭で、初代渡辺館長らＴＩＣ職員と一緒の記念撮影（昭和42年)。



❹ 自習中の研修員

ＴＩＣは諸外国からの研修員にとってHome away from homeである。JICAになってからでも、延32,000人を越える研修員が本センターに滞在した。写真は、居室で自習中のアフリカからの研修員(昭和43年)。

写真で見るTICのうごき (3)

❺ 卓球大会

研修員にとって、レクリェーションは英気と活力を養うために不可欠なものである。週末には地下のスポーツ室はいつも盛況であった。ＴＩＣでは福利厚生業務の一環として年2、3回、卓球大会を開催していたが、いずれの大会も多くの研修員が参加し、その技を競い合った（昭和48年）。

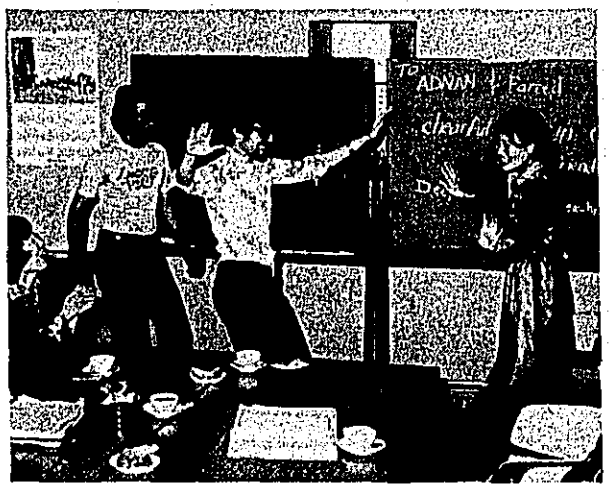
❻ ダンス・パーティ

同じくＴＩＣの福利厚生業務の一環として、行われていたダンス・パーティ。４階の講堂では、メキシカン・ダンス、フィリピンのバンブー・ダンス、タイ・ダンスなど賑やかにくりひろげられ、見物の研修員から声援が送られた（昭和49年）。

写真で見るTICのうごき (4)

❼ 日本語講習閉講式

日本語講習コースは、研修プログラムの一環として、昼間集中的に実施している集中講習と夜間希望者のみを対象とする一般講習の２コースがあり、毎年受講者数は増えてきている。写真は、一般講習の閉講式のあと、習いたての日本語も飛び出す楽しいティ・パーティの風景（昭和51年）。



❽ 集団研修コース閉講式

ＴＩＣでは、集団研修コースの閉講式も年間約40コース開催されている。
東京及びその近郊で実施される集団研修コースは、最近では年間100コースを超え、研修期間は約1.5か月から６か月のコースが大半である。
写真は、４階の講堂で行われた森林造成技術者研修コースの閉講式（昭和53年）。

写真で見るTICのうごき (5)

❾ 生花教室

わが国の伝統芸術である生花は、諸外国から来た研修員に受けがいい。現在、ＴＩＣではオリエンティションの一環として、生花のデモンストレイションが行われているが、以前は研修員に対するこのような技法指導も行っていた（昭和55年）。

❿ アート・スクール

夕食後のひととき、昼間の技術研修から解き放されて、ちぎり絵、折り紙、姉様人形などのつくり方を習う研修員。このアート・スクールも研修員に評判が高かった（昭和58年）。

写真で見るTICのうごき (6)

⑪ 防災訓練

火災、防火の知識を実地に訓練し習得することによってＴＩＣ在館中の研修員、職員などの安全を確保するため、毎年２回(春秋)、牛込消防署の協力を得て実施されていた防災訓練（昭和58年)。

⑫ 群馬ユネスコ少年団の来訪

研修員達もカタコトの日本語で遠来の少年少女達との会話に心をはずませた。
群馬県ユネスコ少年団の訪問は昭和54年から始まり、ほぼ毎年夏休みを利用して続けられ、交流は相互理解に役立った。参加者の国旗を背にして記念撮影のひとこま（昭和58年)。

写真で見るTICのうごき (7)

⑬高級研修員の視察

セネガルの技術教育職業訓練庁長官（中央の女性）が来訪、日本語を習得中の同国研修員達と懇談した。黒板の文字を次々に読みこなしていく研修員の勉強ぶりに満悦の様子であった。(昭和59年)。

⑭ゼネラル・オリエンテイション

ＴＩＣでは、ブリーフィング、ゼネラル・オリエンティション、講義そして日本語講習が講堂や14ある教室を使って実施されている。
写真は、来日早々の研修員に対して、日本の経済、社会、教育などの紹介のため毎週月曜日から金曜日まで行われるゼネラル・オリエンティションのひとこま（昭和59年)。

写真で見るTICのうごき (8)

⓯ 日本武道館見学

日本理解の一助にしようと、昭和50年から牛込警察署などの協力を得て、日本の伝統的武道である柔道、合気道、居合道、空手道、剣道などのデモンストレィションが始められた。模範演技を披露する牛込署員と研修員達（昭和59年)。

⓰ サマー・パーティ

提灯、屋台、売店などで夏祭りふうに飾り付けられたＴＩＣの中庭で、在京研修員や受入れ機関関係者などが、いつも3､400名つめかけて真夏の夜のひとときを親しく談笑、交流を深めながら楽しく過していた。
写真は、ＴＩＣ恒例行事であったサマー・パーティのひとこま（昭和59年)。

8. 国際協力事業団国際研修センター一覧

センター名	所　在　地
東京国際研修センター	〒151 東京都渋谷区西原 2 —49— 5 Tel.(03)485-7051
八王子国際研修センター	〒192 東京都八王子市暁町 2 —31— 2 Tel.(0426)26-5411
大阪国際研修センター	〒567 大阪府茨木市南春日丘 5 — 1 —28 Tel.(0726)23-0631
名古屋国際研修センター	〒465 愛知県名古屋市名東区亀の井 2 —73 Tel.(052)702-1391
筑波 インターナショナルセンター	〒305 茨城県筑波郡谷田部町高野台 3 — 6 Tel.(02975)6-1111
筑波国際農業研修センター	〒305 茨城県筑波郡谷田部町高野台 3 — 7 Tel.(02975)6—1771
神奈川国際水産研修センター	〒238-03 神奈川県横須賀市長井町字番場4500 Tel.(0468)57-2251
兵庫 インターナショナルセンター	〒654 兵庫県神戸市須磨区一の谷町4-5-10 Tel.(078)734-5171
沖縄国際センター	〒901-21 沖縄県浦添市前田真和志堂原1149-1 Tel.(0988)76-6000

メ　モ

85.7.200 HOBI

JICA